

## 今日の説教のポイント<エフェソの信徒への手紙2章1~10節>

### ①聖書が変えたもの1 世界の見方 — 恐れからの解放！

聖書の出現が人類の歴史を大きく変えた出来事があります。この世界は人類にとってその始まり以来、何が起こるか分からない不気味な世界、つまり得体の知れない力が支配している世界に思われてきました。しかし、聖書の出現によって、世界は創造主なる神様によって造られたもので、しかも憐み深い神様の支配の下に置かれた秩序ある世界として捉えられるようになったのです。「あなた方は、以前は～この世を支配する者、かの空中に勢力を持つ者、すなわち、不従順な者たちの内に今も働く霊に従い、過ちと罪を犯して歩んでいました」(1-2)は、当時のヘレニズム世界の人々が恐れていた様々な諸力を表しています。しかしパウロは4節以下で、「しかし、憐み豊かな神は、私たちをこの上なく愛して下さり、～」と、もはやその必要はなくなった、と喜びに溢れて、キリストの神様を知った喜びを語って行くのです。恐れる必要のない諸力に対する恐れからの解放、聖書はそれを人類にもたらしたのです！

### ②聖書が変えたもの2 自分の見方 — この神様と共に生きる！

「～以前は肉の欲望の赴くままに生活し、～、生まれながら神の怒りを受けなければならない者でした」(3)。「神の怒りを受ける」、「神の裁きが下る」、旧新約聖書によく出て来る表現です。これらの表現ゆえに、「聖書の神は恐ろしい」と思う人も多いようです。しかし、旧約聖書で（イスラエルの民に対して）使われている場合も、新約聖書で（個人に対して）使われている場合も、よく読むと、人間が犯した罪に対する罰として神様が裁きを与えられるというよりは、神様が「止めておきなさい」と呼びかけておられるのに、それを人間が聞かずに道を歩み続けた結果悲惨な事態が訪れる、というのが聖書が記している内容の実態です。「自らが播いた種の実りを刈り取ることになる」と表現されていることです。しかし、憐み深い神様はそのような者（私たち自身！）をなお見捨てず、御子イエス・キリストを送り下さり、この方を信じて歩む者にこの方に起こされたことと同じことを起こす（死からの復活！）と約束して下さったのです！ 聖書の出現は、ここに二つ目の新たな世界、「私たちはこの神様と共に生きればいいのか」と思える世界をもたらしたのです！